

常任委員会代表質問通告・内容一覧表

議会傍聴者用

質問順	質問委員会	通告の標題・質問要旨
1	産業厚生 常任委員会 委員長 川染 洋	◎ 再生可能エネルギーの施設設置に関する条例の制定について 産業革命以来、化石燃料は生活水準の向上をもたらした一方、環境汚染や気候変動という深刻な問題も招いた。IEA や IRENA のデータによれば、新規発電容量に占める再生可能エネルギーの割合は 2020 年以降 80% 超で推移しており、太陽光・風力発電が化石燃料に取って代わる兆候は明らかである。本町は「脱炭素先行地域」を標榜しており、こうした世界的潮流を踏まえ、再生可能エネルギー施設の設置に関する条例を制定すべきと当委員会考える。 条例は無秩序な開発を規制するだけでなく、抑制地域の指定・事前協議・住民説明会・災害対策・廃棄費用確保の義務付けといった適正規制と、町への利益還元を促す優遇推進事業の誘導という「両面一体」の内容とすべきである。また、現在推進中の「脱炭素先行地域政策」「マイクログリッド構想」に「水素」を含む整合性を図り、2050 年以降を見据えた条例とすることが重要であると考え。町長の見解を伺う。

一般質問通告・内容一覧表

議会傍聴者用

質問順	質問議員	通告の標題・質問要旨
1	金子孝伸	◎ 将来の大規模災害に対する備えについて 本年4月に三陸沖地震と十勝地方南部を震源とする地震が発生し、後者では鹿追町でも震度4を記録した。近年、全国各地で地震・豪雨・猛暑など多様な自然災害が頻発しており、2018 年の北海道胆振東部地震による大規模ブラックアウトではインフラが数日間ダウンした。また、能登半島地震での通信・道路インフラの長期断絶と孤立集落の続出は、決して他人事ではない。 喜井町長指揮のもと、北十勝4町の広域防災協定や台東区との相互応援協定など備えの「仕組み」は整いつつある点は高く評価する。 しかし「機能させる体制と町民の当事者意識」はまだ十分とは言えない。「発電機も備蓄もある、うちは大丈夫」という意識が町民に根付いており、その自立心は悪くないが、自然はその想定をはるかに超えることがある。この認識がわが町には十分に根付いていないと感じている。以下について町長の見解を伺う。 1、現在の防災体制について町長自身の評価と今後の強化方針は。 2、町民が広く参加する防災訓練実施の必要性について。

質問順	質問議員	通告の標題・質問要旨
2	佐々木康人	（１）ジオパークの「物語」を活かした地域ブランディングについて とかち鹿追ジオパークは 2013 年 12 月の日本ジオパーク認定以来、今年 1 月の再認定審査においても条件なしの「再認定」を受け、その価値が継続して認められた。 観光・教育・環境保全・防災など多岐にわたる分野で関係各位の努力により一定の成果を上げてきたことは認識している。 しかし誕生から十数年を経た現在、ジオパーク活動が「再認定をパスすること」自体を目的とした事務的なマンネリに陥っていないか懸念される。 本町のジオパークが持つ最大の強みは、壮大な大地の成り立ちが現在の豊かな農業や独自の生態系へと地続きで繋がっている「物語（ストーリー）」にある。 これを単なる学術的・教育的資源に留めず、地域の固有価値を高める「地域ブランディング」へと昇華させるべきと考える。 商工・観光・農政・教育がそれぞれの垣根を越えて緊密に連携し、このジオパークの物語を活かした地域ブランディングを今後どのように戦略的に発展させていくのか、町長の見解を伺う。 （２）ナキウサギ観察地周辺での無秩序な駐車問題とオーバーツーリズム対策について 本町に息づくナキウサギやエゾモモンガ、シマフクロウといった貴重な野生動物は、写真愛好家や観光客を惹きつける大きな魅力であり、本町の重要な財産である。 しかし一方で、近年叫ばれる「オーバーツーリズム（観光公害）」による、生息地への過度な負荷や環境破壊が強く懸念されている。 とりわけ、ナキウサギの観察地周辺における無秩序な路上駐車や路肩駐車は、いまや常態化しており、野生動物への悪影響のみならず、一般車両の通行阻害、交通事故のリスク等安全面での課題を抱えている。 また、登山道の整備や貴重な動植物の生態系の維持等、一過性のブームではなく持続可能な観光地であるために、今まさに手を打つべき課題と考える。 この無秩序な駐車問題に対する現状認識と、今後の具体的な安全対策・環境保全策について、町長の考えを伺う。

質問順	質問議員	通告の標題・質問要旨
3	狩野正雄	◎ 町有林の維持（経営）と管理について 森林の持つ価値は、自然環境の保全や農村景観の質を向上させるなど、町民共有の財産であり、将来世代に適切な形で継承することは現世代の責務である。 防風保安林内で発生した倒木処理について、産業厚生常任委員会において国の整備事業を活用した処理計画の方針が示されたが、具体的な内容について質問する。 1、中瓜幕から東瓜幕に延びる保安林で発生した大規模倒木の処理と木材価値の判断、計画的植林等の経営判断方針は。 2、倒木発生の要因はどのような事が考えられるか。 3、国・道の保安林整備の内容と、鹿追町の対応計画は。 4、農村景観形成と強風災害防止に貢献してきた防風林の価値と林地維持管理について、専門家・研究者と共同研究を進める考えは。
4	山口優子	◎ 町内公園等の整備・管理方針について 本町各地域に整備された公園や花壇について、観光客・子育て世代のニーズを踏まえ、公園整備・管理のあり方を総合的に見直す必要があると考え、以下6点を問う。 1、公園の維持管理・整備の今後の方向性は。（子育て支援・観光・地域交流・防災の観点から）。 2、道の駅周辺の公園への大型遊具整備の検討は。十勝一の大型滑り台や町民ホールから温水プールを結ぶジップラインなど話題性・集客力のある特色あるアクティビティ施設を整備する考えは。 3、「花と芝生のまち」として分散整備している花壇を、観光振興・集客力向上のため道の駅周辺へ重点集約する考えはあるか。 4、道の駅のドッグランを隣接地へ移設し、より広いスペースを確保することを検討しては。 5、天候・季節を問わず子どもが年間を通じて体を動かせる屋内施設の整備について、必要性の認識と見通しを伺う。 6、森林環境譲与税を活用した「みんなの木育広場」の具体的な整備計画と完成後の活用計画を伺う。

取り下げ

質問順	質問議員	通告の標題・質問要旨
5	青砥敏一	◎ 行財政改革及び職員のコンプライアンスについて 町長は第7期鹿追町総合計画のもと行財政改革を推進し、令和3年4月の組織機構改革や令和4年2月の行財政改革大綱策定などに取り組んできた。 しかし、令和8年度の当初予算は過去最大の137億9,193万円に達し、町債残高も57億円を超える見込みであり、公債費も9億円を超えているなど、財政状況は楽観できない状況にある。 こうした状況を踏まえ、以下について伺う。 1、これまでの行財政改革の具体的な取り組みと成果及び住民への周知方法は。 2、行財政改革を推進するうえで職員の資質向上・意識改革をはじめとしたコンプライアンス徹底に向けた具体的な取り組みは。 3、経費削減の観点から、備品の管理状況・台帳整備の基準・職員間での共有の仕組み・物品節約に向けた工夫は。